

つまようじタワー 耐震比べ

熊本で高校生コンテスト

高校生が、つまようじを骨組みにしたタワーの耐震性を競うコンテストが23日、崇城大池田キャンパス（熊本市西区）で行われた。約90点のタワーが、どれほどの荷重や揺れに耐えられるかを競った。

建築学科のある同大が、ものづくりへの関心を高め



重りを載せて、揺れに耐えるタワー

てもらおうと毎年開催。7回目の今回は、県内外の26校の約180人が2人1組で、つまようじを接着剤で組み合わせて作ったタワーを出品した。

タワーは30センチ四方の台座に収まり、高さ50センチ以上、重さ65グラム以下などが条件。上部に重りを載せ、人工的

な地震を起こし、倒壊したら敗退となるルールで、揺れに耐えて残ったタワーには重りを追加して改めて揺らし、最後まで残ったタワーが優勝した。

久留米大付設高（福岡県）2年の桑江優希さん（16）（熊本市中央区）は約500本のつまようじを使い、筋交いなども工夫したタワーを出品。3キロの重りを載せた時点で倒壊したが、「様々なタワーが見られて楽しかった」と話していた。